アルフレッド・R・マグルビー在沖米国総領事の県民を愚弄する発言に対する抗議決議

去る９月４日に行われた就任後初の記者会見において、アルフレッド・R・マグルビー在沖米国総領事は、米軍普天間飛行場について「飛行場の周りに住む者はある程度危険があると思うが、特に危険だという認識はない」、「歴史の流れの中で、どうして同飛行場の周りに住宅が密集したのか不思議だ」、また、同飛行場について「世界一危険という表現がどこから出たのかわからないが一人歩きしている。その認識は全くしてない」と発言した。

総領事の仕事は地元の人々の歴史や文化への適切な理解の下、地元の人々の思いを本国に伝えることであり、今回の発言は沖縄戦の戦禍を免れた住民が戻る前に接収したり、力づくで住民を排除して基地が形成された沖縄の戦後史の原点への理解も乏しく総領事の適格性に欠けるものである。また、一日も早い危険性の除去を切に願ってきた沖縄県民の心を踏みにじるものであり、極めて遺憾であり、決して看過できるものではない。

また、マグルビー在沖米国総領事は、オスプレイの安全性が懸念されることについて「安全であると言える」と強調するばかりか「辺野古に普天間の代替施設があって、オスプレイが使えれば密集地の上を飛ばなくていい」と発言するなど、県民の生命と人権を軽視した姿勢は言語道断で到底容認できるものではない。

よって、読谷村議会は、今回のマグルビー在沖米国総領事の発言が沖縄県民の願いと民意を全く無視し愚弄するものにほかならず、到底許しがたいものであることから、マグルビー在沖米国総領事本人、米国務長官及び駐日米国大使に対し強く抗議するとともに、マグルビー在沖米国総領事への発言の撤回と沖縄県民への謝罪、そして退任を強く要求する。

以上、決議する。

平成２４年９月２１日
沖縄県読谷村議会

あて先
米国務長官、　駐日米国大使、　在沖米国総領事